

## 1 - 2 1952年十勝沖地震の震源再決定とその周辺の大地震の余震域について

### Relocated Aftershock Epicenters of the 1952 Tokachi-Oki Earthquake and Focal Regions of Large Earthquakes off Hokkaido

北海道大学理学部 鈴木 貞 臣  
Sadaomi Suzuki  
Faculty of Science, Hokkaido University

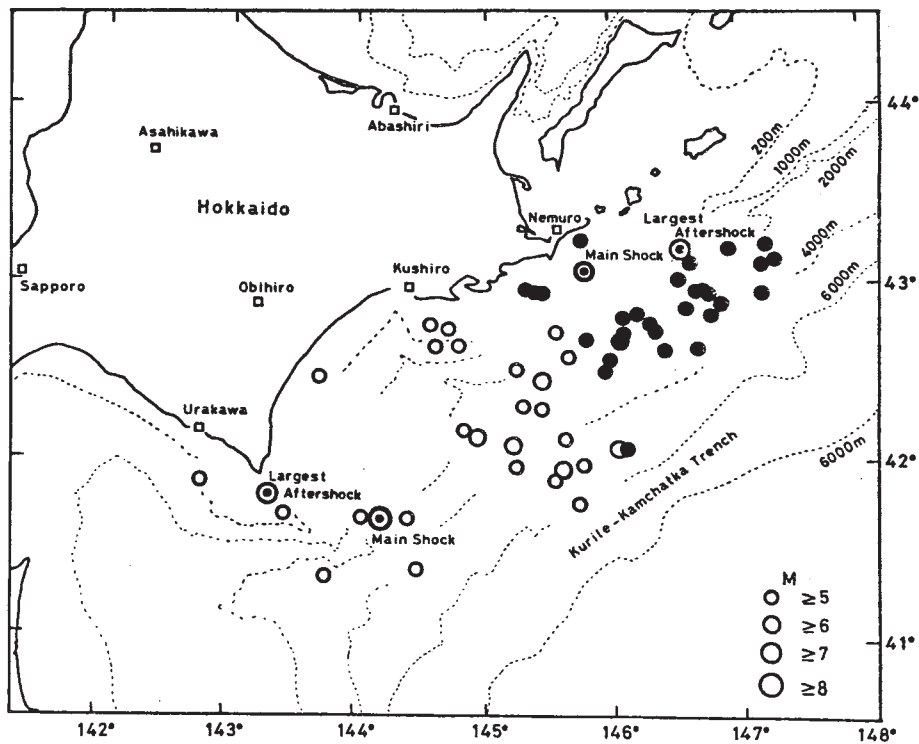
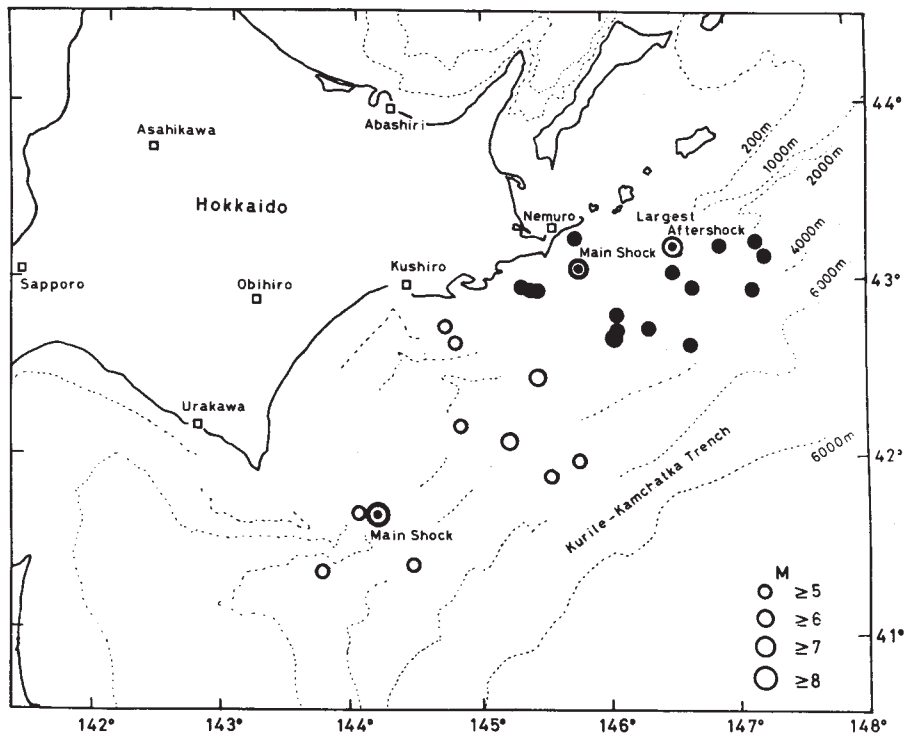
北海道から南千島に行くに従って、気象庁によって決められた太平洋岸の地震の震央は、島弧特有の性質の1つであるマントル速度の地域的違いによって、真と考えられる震央より南側へ系統的にずれていることが知られている。鈴木<sup>1)</sup>はマントル速度の地域的違いを考慮して1973年根室半島沖地震の本震・余震の震源を決定した。ここではそれと同じ方法で1952年十勝沖地震の震源を再決定した(第1図)。資料としては中央気象台月報から、震央距離約300km以内の13ヶ所の観測点(第2図)のP時間、S - P時間を用いた。

この結果、根室半島沖地震の再決定された震央は気象庁の震央に比べて約25km北側へずれたが、今回の52年十勝沖地震の場合は、再決定された震央と気象庁再調査<sup>2)</sup>による震央との間に顕著な系統的ずれはみられない(例えば第2図)。したがって第1図、第3図のように、余震域は釧路 sea canyon より東方70kmにも広がっており、気象庁再調査<sup>2)</sup>の結論と同じく、この余震域と根室半島沖地震の余震域との間に大きな地震活動空白域はみられない。

したがって第3図のように、1973年根室半島沖地震によって、えりも南東沖からエトロフ島までの太平洋岸帯には大きな地震活動空白域はなくなった。しかしその2年後の1975年6月10日に、1969年8月の北海道東方沖地震(M7.9)の余震域内にM7クラスの津波地震が発生している<sup>3), 4)</sup>(第3図破線)。

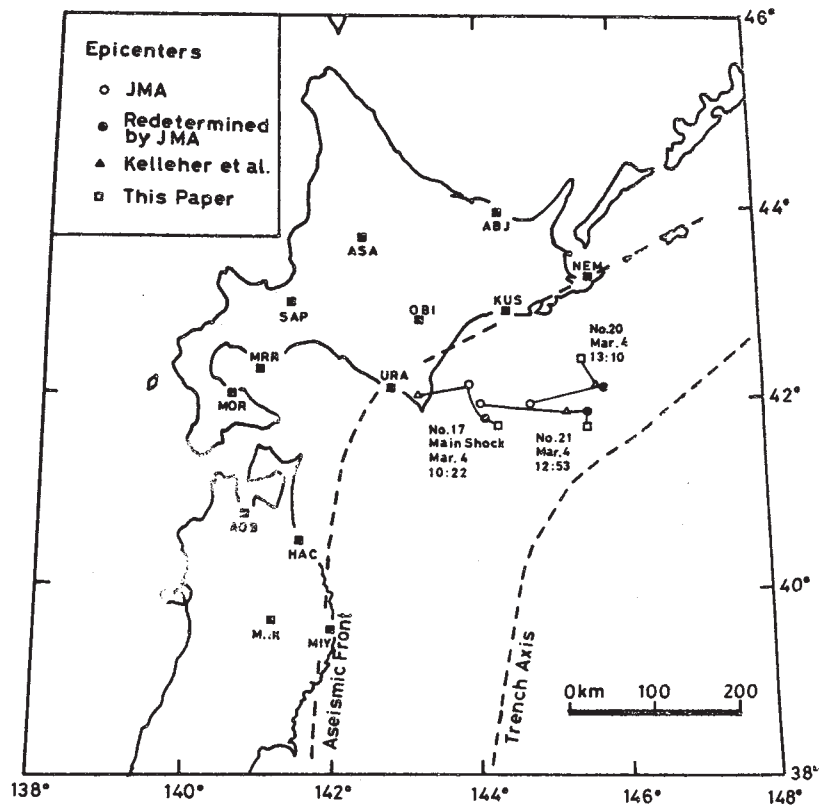
#### 参 考 文 献

- 1) 鈴木貞臣, 日本列島の上部マントル速度の地域性を考慮した震源決定, 地震, 28, 1975, 181 - 199
- 2) 気象庁地震課・地震活動検測センター, 1973年6月17日の根室半島沖地震について(第3報), 連絡会報, 12, 1974, 1 - 3
- 3) 北海道大学理学部, 1975年6月北海道東方沖地震の観測, 連絡会報, 15, 1976, 6 - 7
- 4) 鈴木貞臣, 杉本宏一, 1975年6月北海道東方沖地震の観測, 北大地球物理学研究報告, 35, 1976, 75 - 81

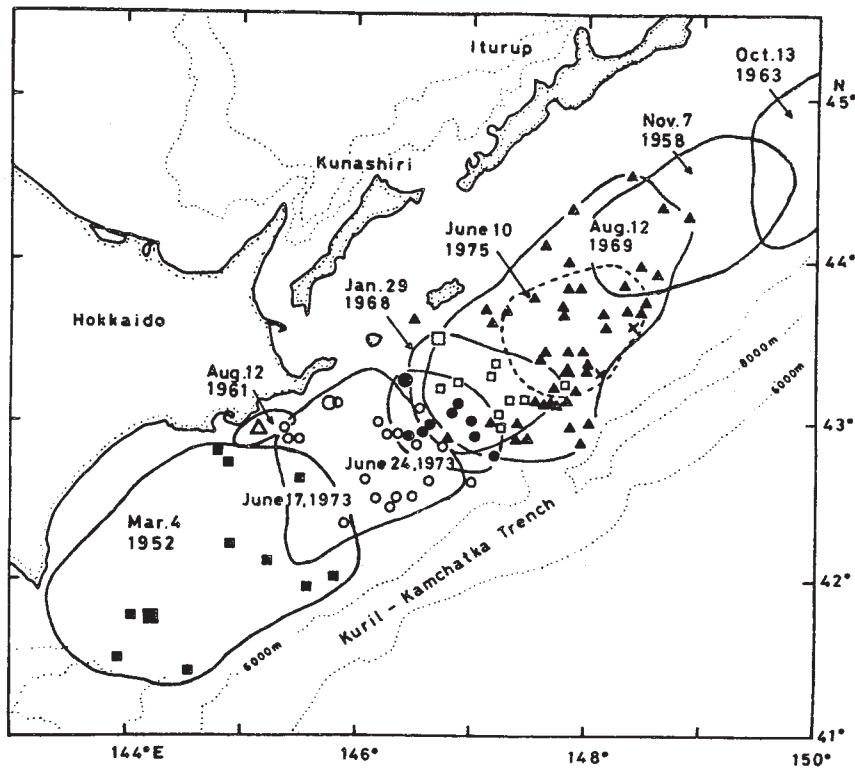


第1図 1952年十勝沖地震（白丸）と1973年根室半島沖地震の再決定された余震の震央。  
1973年6月24日の最大余震も本震として扱う。上図，本震から1日間。下図，本震  
から10日間。

Fig. 1 Relocated aftershocks of the 1952 Tokachi-Oki earthquake (open circles) and the  
Nemuro-Oki earthquakes (solid circles). Upper : events during the first day of  
the aftershock sequences. Lower : events for 10 days after the main shocks.



第2図 震源再決定に使われた観測点と本震・大余震の震央  
 Fig. 2 Location Map of stations and epicenters.



第3図 北海道・南千島沖で起った大地震の余震域  
 Fig. 3 Focal regions of large earthquakes off Hokkaido and the South Kuriles.